

2020 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会における主な質疑応答

2019 年 11 月 14 日開催

【Q1】

再開発の件について、藤沢・五反野・兜町「KABUTO ONE」の3物件は内定ということで間違いないか

A) 建替え案件については、予定どおり順調に進んでおります。兜町「KABUTO ONE」についてもテナントが決まり順調に進んでおります。

【Q2】

再開発案件の五反野について、兜町「KABUTO ONE」と同じように、今ある賃料よりも建替えによって賃料や容積率も増えて投資効率が高いという認識で良いか

A) 五反野についても今まで以上に容積率をアップし、公表どおりサミット様にご利用いただくということでこれまでよりも売り上げ・収益ともに増加する見込みです。なお、同物件の賃貸面積は従来の1600坪に対し1000坪増の2600坪となる予定であり、その面からも収益増となる見込みです。

【Q3】

「(仮称)印西新拠点プロジェクト」における新工場（精米工場）について、進捗状況を教えてほしい

A) 現在、詳細設計中であり、年明けにはほぼ確定する予定です。搗精（生産）能力は年間約7万ト、付帯しているコメ倉庫は低温倉庫で保管量が約1000ト程度となる見込みです。

【Q4】

2020 年度 3 月期 第 2 四半期業績について、上方修正しているがその理由は

A) 物流部門において倉庫保管、国内運送、国際業務が好調に推移したこと、食品部門における販売数量が増加したことから、売上高・営業利益・経常利益を上方修正したものです。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業面での増益や計画外での投資有価証券売却益の計上、これに加えて、不動産部門において第2四半期会計期間に見込んでおりました再開発に伴う解体工事による固定資産の除却損の計上が、第4四半期会計期間に移行する見込みとなったことによるものです。

【Q5】

令和元年産米の仕入れ・販売状況および品質は

A) 仕入れについては戦略的なこともございますため、回答は差し控えさせていただきます。販売については、量販店における新米の切り替え時期が少し早まったことに加えて、増税の影響等から、精米の9月単月における販売数量は前年比10%増となりました。玄米販売につきましては、ほぼ前年並みです。なお、品質については、出穂後の高温や台風の影響等によるフェーン現象により完全に熟さずにもち米のように白くなる現象「白未熟粒（シラタ）」の発生が多くなっております。なお、精米商品の品質については、引き続き細心の注意を払って生産・出荷しており、シラタによる食味への影響はございません。

【Q6】

最近の人材採用あるいは定着に向けた取り組みは

A) 新卒者の採用活動については今年から春に加えて秋も行い、年間2回に増やしております。第2新卒およびキャリア採用につきましては、従来通り秋に実施しております。また、通年採用のあり方についても、現在模索しております。一方、人材の定着については、今年4月から人事制度を改定しました。評価・報酬・教育面など、社員の育成・モチベーションの向上に向けて引き続き体制を整備してまいります。

【Q7】

高齢人材の採用・定着に向けた取り組みは

A) 高齢者の人材採用・定着について、現段階では具体的な取り組みはいたしていませんが、既存社員の再雇用については進めており、65歳を超えて継続して勤務いただいているケースもございます。また、現在は構想段階でございますが、60歳を超えた方を対象として新会社をつくることも検討しております。まずはグループ内での再雇用やグループ内別会社での採用なども検討しており、70歳程度まで働いていただける環境を整備していきたいと考えております。

【Q8】

倉庫業界の現状として、庫腹量（倉庫の空間の量）不足が顕在化しており、再保管もままならない状況があると聞く。貴社はどのような状況か。辰巳営業所の開設はこれも理由の一つか

A) 当社の営業所（倉庫）における庫腹量は、地域によっても状況は異なりますが、新規・

既存荷主ともに現時点では対応できております。辰巳営業所は、既存荷主企業の物量増が見込まれることから、その対応策として開設いたしました。なお、同営業所は、従来使用しておりました他営業所からの移転であり、移転後の既存営業所についてはそれまで分散しておりました荷物を集約するなど、効率化に向けた組み直しを図っております。

【Q9】

説明会資料P7「1.(3)セグメント別決算概要 ②営業利益」における「増減要因」について、物流セグメントでは「大口顧客の取引内容見直し」とあるが、どのような見直しを進めているのか

A) 近年、荷主企業の営業戦略が変わってきており、その結果として当社をご利用いただく際の物流戦略や物量そのものが変わるケースがございますため、その対応として見直しを図っているものでございます。

【Q10】

説明会資料P17「3.(2)中期経営計画進捗」における情報セグメントについて、「グループ全体のIT基盤高度化」とあるが、具体的にどのような取り組みか

A) 今年4月より、当社にございました情報セグメントをグループ会社の株式会社ヤマタネシステムソリューションズに業務移管し、グループが一体となった開発に向けて体制を整備しております。また、物流部門では、倉庫管理システム(WMS)といった基盤ソフト等について見直しをしているところです。こちらも全体を一度に置き換えるということではなくモジュールごとに変えていこうとしており、来期からの実装を予定しております。

【Q11】

昨今の台風や地震等の自然災害への備え(BCP)はどのように行っているか

A) 自然災害等に備えた事業継続計画(BCP)については、愚直に行っております。例えば、昨年7月の西日本豪雨では、神戸営業所で若干の被害がございました。以降、止水板の整備について今一度見直しを図り、不足している拠点への導入を行っております。また、災害時の連絡体制について、従来は地震用として用意しておりました緊急時の社内一斉送信システムを台風や大雨等の際にも活用し、部門や拠点単位での連絡にも活用し始めました。さらに、営業所や精米工場等では、社員の不在時用としてカメラを設置しており、携帯電話等で出先からリアルタイムで監視ができるなど、環境を整えております。今後は様々な災害に対応するため、カメラの設置場所の改善なども行ってまいります。なお、当社の深川営業所は、2012年より江東区と災害時における協力協定を結び、水害等にお

ける近隣住民の避難場所として指定いただいております。

【Q12】

説明会資料P18「3.(3)投資計画(完成時期)」の「関西新拠点新設」について、規模はどのくらいか

A) 当社における現在の関西エリアでの運営坪数は計約1万5000坪となっており、同程度の新拠点取得を希望しております。

【Q13】

辰巳営業所が11月下旬からスタートするということだが、通期に対する売上高・営業利益への効果はどの程度の見込みか

A) 2020年度(来年度)の売上高は今期対比で4億6000万円増、営業利益で1億円増を見込んでおります。

【Q14】

P17「3.(2)中期経営計画進捗」の物流セグメントにおいて、海外拠点の整備としてタイ・ベトナムとあった。その中で「パートナーの見直し」と説明があったが、具体的にどのようなことを行う予定か。詳細を教えてください

A) 現在調整中のため現時点での公表は控えさせていただきますが、海外引越事業における協力会社とのネットワークについて、組み直しを検討しております。

【Q15】

中期経営計画の食品セグメントにおける「産地協働事業」について、令和2年産に向けて計画していることや取扱数量についての具体的な数値を教えてください

A) 産地協働事業は、長く先を見据えたコメ作りの取り組みとして、産地JAに連携いただきながら多収穫良食味米「萌えみのり」「あきだわら」生産への取り組みを協働で行っているものです。令和2年産もその生産量を増やす予定であり、作付け拡大に向けた取り組みを継続的に行っております。なお、令和2年産に向けての種子契約は既に終了しており、当社が扱う種子数は増えております。

以上

〈ご留意事項〉

本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しております。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることを予めご了承くださいますようお願いいたします。